

園長だより「本当に無理なん？」 第22号

小学校にいた頃、子ども達がよく「無理！」と言っている場面に出くわしました。お友だちが遊びに加えてほしい（いわゆる「よせて！」です。）と言われると「無理！」、先生が漢字ノートを見て「もう少しだけ丁寧に書けるかな？」と声をかけると「無理！」。学校の先生に対してもこんな状態ですから、お家の人が「手伝ってくれない？」と声をかけても「無理！」と言っていたのではないのでしょうか。

大人であれ、子どもであれ、確かに無理なこと、無理な場合もありますが、何のためらいもなく、間髪入れずに「無理！」と言われてしまうと「おーい！ちょっと待て、待て！」と思ってしまうませんか。

最近の子ども達は、この「無理」という言葉を安易に使い過ぎているような気がしています。「なんで無理なん？」と聞くと「面倒くさい」「煩わしい」「邪魔くさい」というような答えが多く、私たちが納得できるような明確な理由を持っている子どもは少なかったようです。少し工夫したり、頑張ったりすれば可能なことでも「無理！」と言ってしまうことで全て終わってしまいますよね。フーテンの寅さんが言うところの「それを言っちゃあ、おしめえだよ。」です。

でも、私自身を振り返ってみると、「無理！」の一言で済まさないまでも、最初からあきらめていて、「考えてみます」と言って全く考えなかったり、「努力してみます」と言うてろくに努力しなかったりしていたこともあったような気がします。あの時にもう少し時間をかけて考えたり、努力したりしていたなら、今の自分の姿はどうなっていたのだろうと少し悔やんでいます。皆さんはどうですか。

以前、小学校に勤めていた頃、先生方には子ども達に対しても、保護者に対しても、そして何より自分自身に対しても「Never say Never」（無理・できないと言わない）をお願いしていました。子ども達にも月曜日の児童朝会などで、簡単に「無理！」と言わずに、工夫したり、あと少し頑張ってみたりすることの大切さを語りかけました。

もちろん、どんなに頑張っても無理なことはありますし、努力したけれど思うような結果が出ないこともありました。でも、全教職員が共通してそのような考え方を持つことで学校は変わっていきました。

城東ちどり保育園を卒園する子ども達には簡単に「無理！」と言わない子どもに成長してほしいと思っています。どんなに困難な課題に対しても「Never say Never」の気概を持って真正面からぶつかっていくような人になってほしいですね。

ただ、なかなか結果が出ないこともあります。報われない努力があるのも現実かもしれません。お子さんがくじけてしまいそうになっている時こそ保護者の皆さんの出番です。「頑張れ！」でも、この言葉かけはお子さんに「もう頑張っているのに・・・。」という気持ちを持たせることもあります。お子さんには「頑張れ！」ではなく、「頑張っているね」という言葉をかけてあげてくださいね。